



# 1 級舗装施工管理技術者〔一般試験〕 解答試案

問	解答	ポイント解説	問	解答	ポイント解説
1	3	地盤表面への50~120mm厚の敷砂工法	31	3	平坦仕上げ後に粗面仕上げを行う
2	4	壁面の曲げ剛性と根入れ部の水平抵抗	32	2	または、振動ローラを無振で使用
3	3	路体における砂質土、路床における砂	33	3	防水層、耐水層を兼ねる
4	1	最大幅と最小幅の平均値	34	4	繰り返し表面剥奪試験機
5	2	損害の賠償を発注者に請求できる	35	1	舗装の破損状態に応じて設定
6	2	請負者が監督職員に対し知らせる	36	3	洗浄・吸引は空隙詰りの回復工法
7	2	記述はもりかえ点である	37	2	基層は不透水層、タックコート必要
8	1	粘着力を測定、斜面等の安定計算	38	1	現場事務所は間接仮設
9	4	上部ほど高いCBRを示す場合に適用	39	4	密度は小さく、すりへり減量大きい
10	4	構造的強度の回復は構造的対策である	40	2	把握しにくい
11	3	クラッシュランの等値換算係数となる	41	4	現場管理費の1項目である
12	2	橋面舗装はT/A法では設計困難である	42	1	自動信号は、交通量の少ない道路
13	4	横収縮目地で25横膨張目地で28	43	2	キーは保管庫で管理する。
14	3	切下げ部の段差は50mm以下	44	4	発注者は基準試験の結果を確認する
15	1	スラグ中の石灰分が水と反応し、膨張	45	1	基準密度の93%以上
16	2	針入度により、品質規格が分けられる	46	3	粒度(ふるい分け)試験で確認する
17	3	粘土鉱物と化学反応するのは石灰	47	4	出来形管理項目等は受注者が定める
18	2	アスファルト量は少なくなる	48	3	検査官(監督員以外の者)が行う
19	4	共通範囲の中央値より少なめにする	49	3	幅の検査は、個々の測定値で行う
20	2	初期ひび割れは発生しやすくなる	50	4	試験を行わない。
21	3	一時貯留型と路床浸透型の記述が逆	51	3	修正CBRは路盤材料の強度特性
22	4	A s 乳剤、セメント等の安定材を添加	52	4	前貸の債権と賃金の相殺は出来ない
23	4	軟化点の評価は軟化点試験による	53	1	10km/hを超える場合制限速度を定める
24	2	粒状生石灰は2回混合	54	3	20日以内で出来るだけ短い期間内
25	2	4.75mm、2.36mm通過量に留意する	55	1	40km/hは40%以上、60km/hは75%以上
26	4	中央混合で製造する	56	2	大気汚染に係る環境基準に該当しない
27	1	スクリードの高さはアタック角で調整	57	3	アスファルト混練機で200kg以上
28	3	ニーディング作用が期待できる	58	1	圧入式は特定建設作業から除外
29	3	あおりの上げ下げはこまめに行う	59	4	土砂100m <sup>3</sup> 、碎石500t、加熱アスファルト混合物200t以上
30	2	荒仕上げ 平坦仕上げ 粗面仕上げ	60	1	報告書を知事へ提出



## 2級舗装施工管理技術者〔一般試験〕 解答試案



問	解答	ポイント解説	問	解答	ポイント解説
1	4	雨水等により流出しやすい	31	2	セメント安定処理は最大乾燥密度が基準
2	1	快適展望性に優れる	32	3	基準高は下層路盤まで
3	4	均一な粒径の砂質土は振動ローラが適す	33	2	出来形管理は受注者が自主的に行う
4	3	請負者の負担	34	2	一般に締固め度で行う
5	3	現場説明書は見積り条件を示したもの	35		解答無し。全て適当である。
6	3	土の強度定数を測定する室内試験である	36	3	賃金・処遇は労働条件の内容
7	2	(2)、3、4、6、8、12 20のみ	37	2	車両の幅の最高限度は2.5mである
8	4	表層+基層、路盤の最小厚の規定あり	38	2	30日前まで環境省令により市町村長に届出る
9	1	凍上の抑制には凍上抑制層を設ける	39	1	手持ち式は除外されている
10	2	切込み砕石は路盤用の材料である	40	1	土砂、コンクリート塊、アスファルト塊、木材
11	4	針入度で分類する(例: 60~80)			
12	3	上層路盤には粒度調整砕石を用いる			
13	4	油脂類はカットバックの要因となる			
14	3	ポラス混合物は現場透水量試験器			
15	4	最適含水比よりやや湿潤側で締固める			
16	3	Asフィニッシュを止めずに荷卸しする			
17	3	仕上げ転圧はローラの消去が目的			
18	2	コーティング作用があるのはタイヤローラ			
19	4	普通ポセメントで3日以上養生			
20	1	防水層を設ける			
21	3	鉄輪ローラでプレコート砕石を圧入			
22	3	路上破碎混合機を用いる。			
23	1	カンタブロ試験機			
24	3	表面処理工法は機能的対策			
25	4	シール材注入で使うのはコンプレックス			
26	2	簡略に記述する			
27	1	再生アスファルトの動粘度より求めた値			
28	2	機械費、仮設費は義務付けられていない			
29	1	一般車両の通行を優先する			
30	1	1車線の場合は幅員は3.0m以上			

